

最終公開審査対象応募案件改善アドバイス

2018年4月24日
COG2017 審査委員会

I. 総論

<ファイナリストチームへのメッセージ>

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら13案件の今後の課題は総じて、（１）アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、（２）COGでは社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリソースの範囲で検討してみること、（３）アイデアの実現フェーズに移行するには（１）の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス2017フェーズ2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

協働による多目的トイレ発検索アプリ開発

（応募チーム：多目的トイレ発検索作成協議会）（特徴）

小児麻痺を患ったリーダーの実際の必要性に根差した、外出時の多目的トイレを簡単に検索できるアプリの案に特徴がある。しかしこのためには、多目的トイレの存在場所についてのデータの入手が不可欠で、これには宇部市でオープンデータ化している公共施設情報だけでなく、商業施設における多目的トイレの情報もこれから必要になってくる。

アイデアを実現するには・・・

自分が使えるトイレの情報を
ほしいときに得ることができるアプリを作ろう



しかし・・・

- ・「アプリ開発」ができない
- ・「多目的トイレの詳細なデータ」がない

（アドバイス）

（１）アイデアを支えるアプリの開発について

当初のアイデアは多目的トイレ発検索アプリの開発でしたが、宇部市役所の本企画の担当の方の

示唆でもある、最近開発された優れたバリアフリーマップアプリの Wheelog（東京都オープンデータアプリコンテストで入賞）と連携してそこにまず宇部市の 58 公共施設の多目的トイレのデータを載せていくことがより有効ではないかと思われます。なお、Wheelog はトイレだけではなく、そこへのバリアフリーアクセス情報なども掲載可能で、このような情報をさらに載せていくことも重要な取り組みかと思われます。このような情報の掲載には実際に車椅子で移動した情報が必要ですが、このために大学生などによるボランティアの情報収集活動も組み込みられれば有益かと思われます。

なお、アプリによる多目的トイレの検索だけでなく、昨年度の宮前区の「みやまえ子育ておうえんだん」のアイデアにならって、多目的トイレの設置施設の入口などに多目的トイレ有りの表示ステッカーを上記学生ボランティアが計画的に貼付していくことも有効な方法かと思われます。

（２）公共施設以外の場所の多目的トイレのデータ収集と多目的トイレ設置施設へのステッカー貼付
今回のアイデアの検討にあたり、宇部市は学生などの協力を得て公共施設の多目的トイレのオープンデータを公開したが、スーパーなどの商業施設や医療機関などにも多目的トイレがあるので、それを一般的に開放しているもののマップを学生ボランティアが探して（１）後段の表示ステッカーの貼付対象にしていることができれば有益かと思われます。

（３）継続的な取り組みへのコミット

今回のアイデアの発案は代表者の大浜 尚氏であったが、全体の仕組みを支えていったのは市役所の担当の方であった。今後は実施段階となるので、市民側で発案者の大浜 尚氏をサポートするリーダー（あるいは集団）の構築が不可欠であり、早期の具体的な取り組みが期待されます。また、宇部市障害福祉課の持続的なサポートが今後とも必要であると思われます。